

# 訪問看護ステーション便り



問 訪問看護ステーション  
☎ 32 - 2416

「高次脳機能障害」という病気をご存知ですか？ 今月は、高次脳機能障害になり、記憶障害を抱えた利用者さんに訪問看護にうかがい、担当者と協力して支えることで、お薬の管理ができるようになった事例を紹介します。

## わからないことが多くなり不安だったしさん

しさんは、脳梗塞のあと高次脳機能障害になりました。自宅で暮らすことを希望され退院しましたが、薬の管理ができなくなり「体調が悪くなってしまう」と不安になりました。そこで、ケアマネジャーからの紹介で、週1回の訪問看護を開始しました。

しさんは、何種類もある薬を毎日忘れずに飲むことができずに、たくさんお薬が残っていました。



そこで、訪問看護師が医師に相談して薬を1包化することで、朝だけ飲めばすむように調節していただきました。

訪問看護師は1包化した薬を、1日1包ずつ1週間分を訪問看護時にカレンダーに貼るようになりました。



担当のケアマネジャーには訪問時に薬の飲み忘れがないか確認してもらいました。

また、毎日自宅にうかがっている訪問介護の方に「お薬飲んでくださいね」と声をかけてもらいました。



訪問看護開始当初は、予定日を忘れて外出してしまい不在なことが多くありましたが、開始から4カ月後には、しさんは訪問看護を玄関で出迎えてくださるようになり、お薬も飲み忘れがなくなりました。



### 【高次脳機能障害とは】

交通事故で頭を強く打ったり、脳卒中などで脳にダメージを受け、日常生活に戻ったときに外見上は回復したように見えても、脳の機能のうち、記憶、思考、理解、計算、言語、判断、情緒などの「認知機能」に障がいがある状態のことを言います。

本人が症状に気付かないこともあり、周囲から「人が変わった」「乱暴になった」「怠け者になった」など理解されにくい障がいといわれています。症状や程度が多様であるのも特徴です。

**90%** 記憶障害

一番多いのは記憶の障がいで、自分が言ったことや行ったこと、また約束を忘れてしまうことがあります。しかし、興味や関心のあることは覚えることが出来たり、繰り返して体で覚えることができたりします。

ご本人が自分の障がいを認識し、メモやスケジュール帳などを活用して記憶を補う工夫をすることで、外出したり、家事ができるようになる方も大勢います。

### 【高次脳機能障害と認知症の違い】

高次脳機能障害は非進行性で、適切な診断による早期リハビリによって、障がいを受けた部分が回復する可能性があります。一方、認知症は進行性で、人によって差はありますが、認知機能が徐々に低下していきます。